

## 第一節 正道 邪道を見極めて

情報が世界を駆け巡るような時代にあつて、自分の知らなかったことも、調べれば容易に知ることが出来ます。そのような中で、みんなが信じていた歴史的実事が、実は違っていたなどということも起きてきます。知識、情報は、決して確実なものではないのです。

人は、思い込みやすいものです。全てを分かっているつもりでも、実は分かっているようなことが意外と多かったです。例えば、宇宙にどれほどの星があるのか、人類は分かっているようでいて、実は未知のことがはるかに多いのです。ほとんどのことを分かっていると思うのは、思い込みです。

神の教えを学んだのなら、それを自分の感じ方、考え方、物事の捉え方に取り入れることです。自分自身の生きる基軸、価値観とするのです。教えを人生の基軸に据えると、生きることがとても簡単で、楽しいことと思えてきます。

もし、八十代の人が家を建てようと考えたなら、どうでしょうか。よほど資金があるならまだしも、借り入れをして建てるというのでは、論外です。それは極端な例としても、人間は自

らの足元が見えないでいる人が多いのです。

人間は、迷うものです。しかし、神の教えを身に付ければ、迷いがなくなります。なぜ迷うのかといえば、知識が抱えきれないほどあふれているからです。教えを基に考えれば、「これは自分に関係のないこと」「これは自分の問題として取り組まなくてはいけないこと」と、的確に判断できます。つまり、知識を得ることによって、気持ちが振り回されるのではなく、取捨選択できる能力が身に付いていくのです。

信者の道を正しく歩むことが必要です。信者の道とは、神の教えを学び、祈願で実践に移して、愛ある心になっていくことです。この感覚がないと、世の中にあふれている知識、考え方にのまれてしまいます。真理のない知識にのまれ、思い込んでいきます。その感覚で暮らしたのでは、想定しないことが起きてきます。

そうならないために、神の教えを学ぶのです。学んで、祈願して、愛ある心へと高めていくことです。祈願とともに、そこに示された生き方を、自分自身の物の捉え方の基軸に修めるのです。すると、知識や経験が生きてきます。教えを基に考えると、さまざまな知識や体験が役立つものとなっていきます。

家族で教えを学ぶことです。家族のみんなが学んでいると、迷いのない家庭になります。学ばないと、知識に流されて、どんどんと違う方向に進んでしまいます。教えが考え方の基軸になれば、過去は変えられなくても、それを生かすことができます。